

有朋

「有朋自遠方来」



有朋会会報第 41 号
令和 4 年 7 月 1 日



歴史を語り、つながりを広げ、そして今を生きる

有朋会会長 山田 直行

世界的な広がりを見せている新型コロナウイルス禍は、今年で3年目となりました。またヨーロッパでは春を待たずに、ウクライナでの戦争が始まりました。終わりの見えない戦いが続き、無残に破壊された建物や、泣き叫ぶ人々の姿がリアルタイムで目に入ってきます。平和な当たり前の日常が、いかに簡単に崩壊するかを実感させられている昨今です。そんな中、全国の有朋会会員の皆様に、会報誌有朋第41号をお届けします。

さて、母校佐賀大学では4月5日、佐賀市文化会館での入学式が行われました。学部生1,326人（内教育学部生124人）、大学院生296人、外国人入学生18人の計1,640人が新たな学生生活をスタートさせました。兒玉浩明学長は、「歩みを止めず着実に未来へ進んでほしい」と激励され、学生達にとって、一人一人の新たな人生の歴史が始まりました。

「歴史は物語るためにある」と先人の言葉があります。私たちは一昨年から役員会で議論を重ね、コロナの時代の活動の在り方やその歴史と伝統をいかにつなぎ広げていくかを語り合い、次のようなことを計画しました。

一つは、有朋会135年記念誌「続・創造と継承」の作

成です。お陰様で全国から約150編ほどの原稿が寄せられ、山口久美子副会長（S41小）の編集委員長のもと、しなやかなアイデア溢れる記念誌の編纂が進んでいます。

また、有朋会命名由来の「論語学而第一」の全文の色紙を作成しました。書家の米倉基峰先生（S33年）の流暢な筆致の揮毫によるものです。色紙の裏面にはその解釈文を付け、会報誌と一緒に郵送できるように色紙のサイズを工夫しています。今日の不安定な時代を乗り切る、心の指標の一つに加えていただければ幸いです。さらには、県内外の各支部への助成等を行いました。

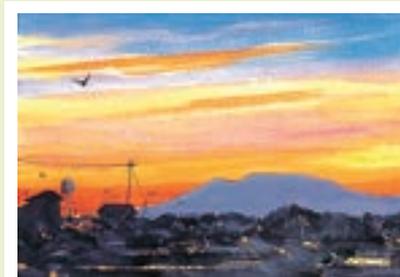
有朋会会則第3条（目的）に、私たち、有朋会の活動目的の一つは、教育及び社会・文化の振興発展に貢献することとあります。それらは目に見えにくいですが、感じるができるものでありたいものです。

「有朋会の独自の発信力」それが有朋会の「ブランド力」と言えます。そのブランド力を高め明日につないでいくことが、今を生きる私たちの役割かもしれません。「ウィズコロナの時代」を皆様と一緒に乗り切っていきましょう。「ビヨンド・コロナ（コロナの向こうへ）」はすでに始まっています。



ふるさとスケッチ

台風一過の翌日は夕焼けが特に美しい。佐賀市蓮池町西名での田んぼ道。さっさと沈んだ大きな太陽。遠くの天山や近くの家並みのシルエットが濃淡のグラデーションとなって、背景の空を茜色へと染め始める。赤、橙、青紫の空の色は、舞台照明のホリゾン・ライトのように変化する。束の間の荘厳な景色。この美しい風景を見てしみじみと思う。人がこの夕焼けの美しさをつくったのではない。「美」すなわち「美しいと思う心」が人をつくっていく、などと少し高尚なことを思いながらの帰り道。秋はこれから少しずつ深まっていく。



天山夕景（佐賀市蓮池町）



新採1年目を終えて

R3年卒 武雄支部 脇山真優

令和3年度の春から佐賀県武雄市の小学校教員、4年生担任として働き始めました。コロナ禍の中でのスタートで右も左も、ましてや子どもたちの顔ですらわからない不安な教員生活が始まったことが昨日のこのように思い出されます。しかし、子どもたちの優しさや頼もしさ、周りの先生方の的確なアドバイスや支えによって無事、教員としての1年間を終えることができました。感謝の気持ちでいっぱいです。

子どもたちからは、毎日多くのことに気付かされます。特に、大人と子どもは何ら変わらない、同じ感情を持つ人間であることに気付くことができました。当たり前のことですが、笑顔で声をかけると笑顔で話してくれたり、たくさん褒めると嬉しくて照れた顔になったりなど、本当に大人と違いありません。一人一人が持つその気持ちを大切にしていかなければならないと思いました。

しかし、今のマスク生活ではなかなか気持ちが伝わらず、気持ちがわかりにくいもどかしさがありま

す。そんなときは、声色を変えたり、体全体を使って自分の気持ちを伝えたりしました。特に効果的だったのは、子どもたちに大好きだという気持ちを伝えるために両手を使ってハートマークを作ったことです。「大好きだー！」と大きな声で言葉にしながらか教室の中を歩き回ると、子どもたちはニコニコしていました。一緒になって喜怒哀楽を表現し共感ができる、そんな先生になりたいです。



4年生の授業の様子



準硬式野球部の思い出

S60年卒 唐津支部 北川正行

幼い頃から学校から帰って友達と遊ぶと言えば、野球だった。少年野球をし、その後は中学校、高校では別の事をした。佐賀大学に入学し、やはり野球がしたいという思いが高まったが、続ける自信がなく、周囲には内密で準硬式野球部に入部した。部員のほとんどが高校野球経験者で、最初は、「あまかった」と後悔したが、周りの球友の支えもあり、何とか続けることができた。佐賀大学準硬式野球部が福岡六大学リーグにも加入していた当時、福岡ダイエーホークスのホーム球場としていた人工芝の平和台球場、そして佐賀球場でプレーできたことは、何

より幸せだった。

卒業後は中学校の教員となったが、大学で野球をしていたということもあり、20年間、野球部顧問をさせていただいた。試合に勝って子供たちと共にうれし涙を流し、負けて共に悔し涙を流した。子供たちとグラウンドで流した汗と涙は何物にも代え難い感動の証だった。今年度末、退職を迎えるが、野球部同窓会を計画中である。大学時代に野球で繋がった友と昔話を花を咲かせようと、再会を待ち焦がれているところである。

キングカズとともに

S60年卒 佐賀市東部支部

コロナの影響で3月の初めに、令和3年度シニアサッカーのリーグ戦は、終わりを迎えた。年度の途中再開をしたものの再びコロナの感染拡大により、数試合を残しての中止である。還暦を迎えても、未だにサッカー小僧の気分のままボールを追いかけている自分にとっては、なんとも残念な連絡であった。

中学1年生の時にサッカー部に入って以来、50年近くサッカーを続けてきたことになる。同じチームや相手チームの中には、20歳くらい若い選手もいるので、当然、動きの速さやキックの距離は比べ物にならないが、パスのやり取りから、たまにゴールを決めることもあるのがなんとも楽しい。まずは、けがをしないこと、少しでもイメージに近いプレーができること、チームメートに迷惑をかけない程度に



池田 典穂

走り回ることができることを目標に、時間があるときはランニングや筋トレをして足腰を鍛えているつもりだが、年々、思うような動きやキックができなくなっているのが現状である。

比べてはいけませんが、キングこと三浦知良選手は、現在55歳。今年も現役のプロサッカー選手として、JFL所属の鈴鹿ポイントゲッターズへ移籍し活動をしている。その年で現役であることは、言い方は悪いが「化け物」である。半分以下の年の若者と体をぶつけ合い走り回ることができるのは、熱いサッカーへの情熱とトレーニングの賜物であろう。「よし、カズが現役である限り、自分もサッカーを続けよう。」今年も、令和4年度のシーズンへ向けて始動を始めたところである。

健康が気になる今日この頃

S62年卒 佐賀市北部支部

「先生、元気の秘訣を教えてください。」昼休みに勤務校の子供たちがやってきた。どうやら子供たちの目には私が健康で元気に映っているのだろうか。もし、そうであるのならば素直にうれしい。

大学を卒業して早35年。身体に様々な変調が来してもおかしくはないが、これまでのところ、深刻な疾病等はないようだ。ありがたいことである。

今年度は勤務校が「がん教育推進校」に指定され、学校全体で健康教育に取り組んできた。当初は手洗い、うがいの励行やハンカチ・タオルの持参を度々指導してきたが、現在はほぼ定着している。子供たちの意識も高まってきた。継続は力なりである。

さて、先の子供たちの質問にどう答えたものだろうか。自分の生活を振り返って自問自答する。

齢を重ねるに従って早寝早起きが定着した。目覚ましはほとんど不要である。十分な睡眠がとれているのだろう。朝起きて身支度を済ませ、腰痛防止の



秋吉 洋志

ストレッチをする。

そして犬の散歩。小型犬なので短時間ではあるが寒い日でも体が温まる。昼食も給食なので栄養バランスは完璧。しかも、おいしい。週末は趣味のテニスに興じている。

職場でもよく笑わせてもらっているのでストレスも大きくはない（と、思っている）。

考えてみると知らぬ間に健康的な生活を送っているのかもしれない。これからは無理せず自然体で健康的な生活を送っていこう。

子供たちには「何でもよく食べて、運動して、しっかり眠ることです。」と、当たり前のことしか答えられなかった…。



子どもたちと水路で



豊かな人生をスポーツとともに

H11年卒 白石支部 梅 木 純 一

小学生の頃から、スポーツと縁が深く、野球・バスケット・陸上・駅伝など多くの競技に夢中になって取り組んできました。社会人となり、自ら競技と向き合うことが難しくなってきた中で、偶然にもジュニアスポーツに携わる機会を得ることができました。この経験は私にとって、人間力を向上させてくれる貴重な時間となっています。

現在私は、教職の傍ら、ジュニアバレーボールの指導者として、スポーツとの関わりを持っています。早いもので、11年が過ぎようとしています。私にとってバレーボールは経験したことのない未知のスポーツ。そのような中で私がこだわってきたことは、とにかく学ぶこと。強いチームはどんな練習をしているのか、指導者として何を大切にしているのか、子ども達はどうか成りたいのか。とにかく、「見て」「聞いて」「話して」「伝えて」「試して」「自らもやって

みて」こうした経験を通して、自らの指導を日々アップデートしていくことに注力してきました。決して順風満帆ではないけれど、子ども達とチャレンジした日々は、自分にとって大きな財産となって、人生の活力となっています。

これからもまだまだ、ジュニアスポーツに携わっていこうと考えています。もちろんスポーツの主体は、それに取り組む子ども達。子ども達にとって、スポーツが人生を豊かにしてくれる力となるよう、私もまた、努力を重ねていこうと考えています。



感謝とつながり

S63年卒 三養基支部 野 口 博 敏

北茂安小学校に赴任して1年が過ぎようとした内示後の3月下旬、「令和3年度の三養基支部支部長をお願いします。」突然降ってわいたような話に戸惑いながらも引き受けてしまい、「管理職でもないのにできるのか？」と後悔しながらの1年間。有朋会本部のご助言とご助力を仰ぎながらどうにか終わったことに感謝いたします。

コロナ禍の中、支部の総会や懇親会など大きな行事を開催することはできませんでしたが、各学校の事務担当の先生方や会員の皆様にご協力いただいたことは心強い限りでした。特に、記念誌の原稿依頼や物故者様の追悼にかかわる内容については、ご多忙の中、さっそくご対応いただきありがとうございました。

赴任後1年で地区のこともよく分からない私に退

職会員の代議員様を紹介して下さったり、代議員様依頼の急な電話にも快く引き受けて下さったり、温かいご対応に安心したことが思い出されます。また、私自身も校区内の物故者様のお宅を訪問し弔意をお伝えした際に、見ず知らずの私に対し、親しげにお話をしていただいたご遺族の姿に接するにあたり、「有朋会」の組織のすばらしさの一端に触れた思いがしました。それまで「会費さえ納めていれば…」と他人事のようにかかわっていた自分でしたが、有朋会の絆の深さを改めて感じる事ができた1年間でした。支部長として何もできなかった私でしたが、本部並びに周りの先生方のご協力に感謝するとともに、有朋会のこれからの益々のご発展を祈念したいと思います。

回想

H2年卒 県庁支部

巷には、定年延長の波が押し寄せている。自分の残りの教員人生はあと何年あるのか、最近よく考えるようになった。これを機に若き日の教員生活を振り返ってみたいと思う。

平成2年4月、東部地区のある小学校に新採として赴任した。当時は現在と同じく大量採用の時代であったため、1校2名配置であった。初めての担任は4年生。とにかく、明日の授業をどうするかだけ、必死に考えていた。余裕で日々の授業をこなしている先輩教員が羨ましく見えた。

当時の事を最近、よく思い出す。月末になると財布の中は、数千円。スーパーの安売りのパンやうどんを買い、空腹を凌いでいた。そういう姿を先輩方はわかっていたのだろう。毎週のように飲み連れに連れて行ってくれた。事あるごとに自宅に呼ばれ、夕飯を御馳走になった。今ではあり得ないことかもしれ



長尾 真司

ないが、今の自分にとってはとても大切な経験であった。

29年経ち、私が校長になった時、新採の時に担任した子どもたちが、校長就任のお祝いをしてくれた。みんな40近いおじさんとおばさんになっていたが、心から祝ってくれた。当時のことを懐かしそうに話している姿を見ると、これまでの苦労が一瞬にして吹き飛んだ。集まってくれた教え子には、感謝の気持ちでいっぱいだ。

数年後、桜の季節を迎えた時、桜を見上げながら何を思うだろう。今から楽しみである。



盲学校に勤務して

H2年専攻科修 県立・私立支部

令和2年度4月から令和3年3月まで県立盲学校に勤務しました。それまで教員としては高等学校での勤務経験しかなく、特別支援学校も初めてでしたので戸惑うことも少なくありませんでした。

盲学校というと全盲をイメージされがちですが、視覚障害は、全盲だけでなく弱視や視野狭窄等もあり、障害の程度も様々。さらに知的障害等との重複などもあり、実態はまさに千差万別です。当然、視覚による情報が制限されますので、校内の安全管理は大変気を遣うのですが、卒業後の生活のために、日常生活のための指導や校外における歩行指導等も行います。単に点字ブロックが整備されているだけで自由に歩けるわけではないのです。また、生まれつき障害のある場合と途中で視覚障害者となった場合とで支援・指導は異なります。一から言葉や数を



池田 忠徳

教え、さらに点字を身に着けさせるには、高度な専門性が必要ですし、中途失明などの場合は障害の受容についての支援が欠かせません。

この他にも盲学校で初めて体験すること、気づかされることは多く、これまで自分が当たり前と思っていたことがそうではないことを痛感しました。2年間の勤務でしたが、こうした経験を今後の業務に活かしていきたいと思っています。



佐賀県立盲学校

支 部 便 り

伊万里・西松浦支部

伊万里・西松浦支部は、令和4年3月現在、伊万里市・西松浦郡内の小中学校に146名の現職会員と小中学校区ごとに177名の退職会員がおり、総勢323名で構成されています。

伊万里・西松浦支部では、毎年9月第1土曜日に支部研修会と支部総会を行ってきました。令和元年度の支部研修会では、喜寿会員である北川明彦先生による「有朋会への思い」という演題で講演を行っていただき、その後、懇親会を行いました。懇親会では、本部役員の方をお招きし、退職会員と現職会員とが教育について熱く語り合うことができました。

しかしながら、令和2年度からは、コロナ禍のために総会を2年連続で中止せざるを得ない状況となっています。懇親会は、たいへん盛り上がりますので、開催を望む声が多く届けられており、開催の時期を模索しているところです。

新型コロナウイルス感染症についても、少しずつではありますが、「withコロナ」、「アフターコロナ」という言葉もよく聞かれるようになり、1日でも早く新型コロナウイルス感染症が収束し、支部会員が安心して集まり、研修会や懇親会を行うことができるように、そして、伊万里・西松浦の教育の今後について、熱く語り合える時間を楽しめるようになる日を心待ちにしております。

(伊万里・西松浦支部長 長谷川 晃三郎)



支部総会と研修会の様子

佐賀市西部支部

佐賀市西部支部は、昭栄中校区、城西中校区、東与賀中校区、思斉中校区の小学校11校、中学校5校で構成されており、佐賀平野の特徴でもある縦横に走るクリークの田園地帯に位置しています。また、有明海に面しており、干満の差が大きい干潟にはムツゴロウやシオマネキなど特有の生き物が生息し、秋にはシチメンソウが有明沿岸を真っ赤に染める自然景観を見せる地域でもあります。

2021年度の教育は、中学校の新学習指導要領が全面実施（小学校は2020年度実施）となり、変化の激しい社会を生き抜く力の育成が求められました。また、タブレット端末を活用した個別最適な教育を実現させるための「GIGAスクール構想」がスタートしました。

教育の変化の時代に、今年度は東与賀小学校がお世話させていただくことになり、会員名簿の点検・更新、会費集金等の業務を進めてまいりました。また、総会や懇親会等の計画をし、先輩方のお話を伺いながら親睦を深めていきたいと考えていたところでした。

しかし、今年度も新型コロナウイルス感染が流行し、感染拡大防止の観点から行事の中止を決定させていただきました。一日も早くコロナの不安に脅かされず、人と人とのかかわりをもてる生活が来ることを願います。そして、支部の活動が再開され、会員の皆様元気で活躍されることをご祈念いたします。

(佐賀市西部支部長 白濱 勝)



有明海 シチメンソウ

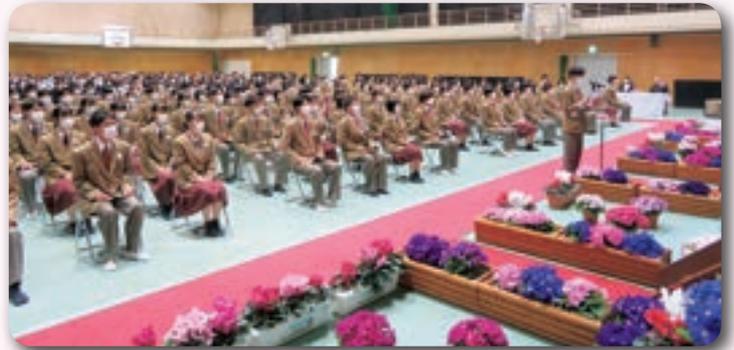
県立・私立支部

県立・私立支部は、県立高校32校、県立中学校4校、県立特別支援学校8校、私立学校9校で構成されています。多くの学校が所属し、会員数も多いため、支部運営の負担は少なくありませんが、円滑な運営により会員の皆さんが喜んでいただける活動ができるよう努めて参ります。

この2年間、新型コロナウイルス感染症の影響で会合や懇親会などの活動は何一つ実施できませんでした。学校においても修学旅行をはじめ教育活動の多くが中止を余儀なくされ、入学式、卒業式、体育祭、文化祭などは時間や人数、実施内容を縮小・変更しながら開催しました。掲載している写真は、令和3年度事務局校の県立神埼清明高校の卒業式です。

今後、新型コロナウイルスが収束してこれまでの生活を取り戻すことができ、支部の活動ができるようになることを願っています。

(県立学校・私立学校支部長 高尾 伸之)



令和4年度 有朋会支部長の皆さんです

有朋会の支部長の皆さんをご紹介します。皆さんは、支部のネットワークの要として活動してくださっています。本部では、支部の事務軽減のために退職会員の会費納入については、振込用紙を会報誌「有朋」とともに送付したり、冊子等は直送したり工夫をしています。ただ、これからも支部の会員の皆様同士のつながりは大切にしていきたいと思っています。会員の皆様、お問い合わせやお知らせ等ありましたら支部長さんまでご連絡ください。

支部名	支部長名	連絡先	電話番号
福岡支部	鶴 久生	福岡県糸島市高田5-22-13-105	092-324-6645
県庁支部	長尾 真司	佐賀県教育庁学校教育課	0952-25-7395
鳥栖・基山支部	福山 信代	基山町立基山小学校	0942-92-2431
三養基支部	江島 裕章	みやき町立三根東小学校	0942-96-3106
神埼支部	秋吉 洋志	神埼市立仁比山小学校	0952-52-2504
佐賀市東部支部	浅井 慎司	佐賀市立赤松小学校	0952-24-4225
佐賀市西部支部	永瀬 一裕	佐賀市立思齊館小学校	0952-68-2151
佐賀市北部支部	青柳 博文	佐賀市立春日小学校	0952-62-2128
小城・多久支部	藤瀬 秀隆	小城市立三日月中学校	0952-73-2016
唐津支部	丹野 到	唐津市立浜玉中学校	0955-56-6650
伊万里・西松浦支部	長谷川晃三郎	伊万里市立伊万里小学校	0955-23-4128
武雄支部	下田 正弘	武雄市立武内小学校	0954-27-2011
江北支部	川野 仁司	江北町立江北小学校	0952-86-2251
白石支部	櫛村 圭子	白石町福富小学校	0952-87-3126
鹿島・嬉野・藤津支部	山口 高弘	鹿島市立能古見小学校	0954-63-3983
県立・私立支部	近藤 清孝	佐賀県立中原特別支援学校	0942-94-3575
関西支部	猿渡 千歳	大阪市旭区太子橋3-4-3	06-6953-9014

たくさんの寄稿
ありがとうございました！



有朋会135年記念誌 続「創造と継承」

～あしたへ ^{つな} 継ぐ～

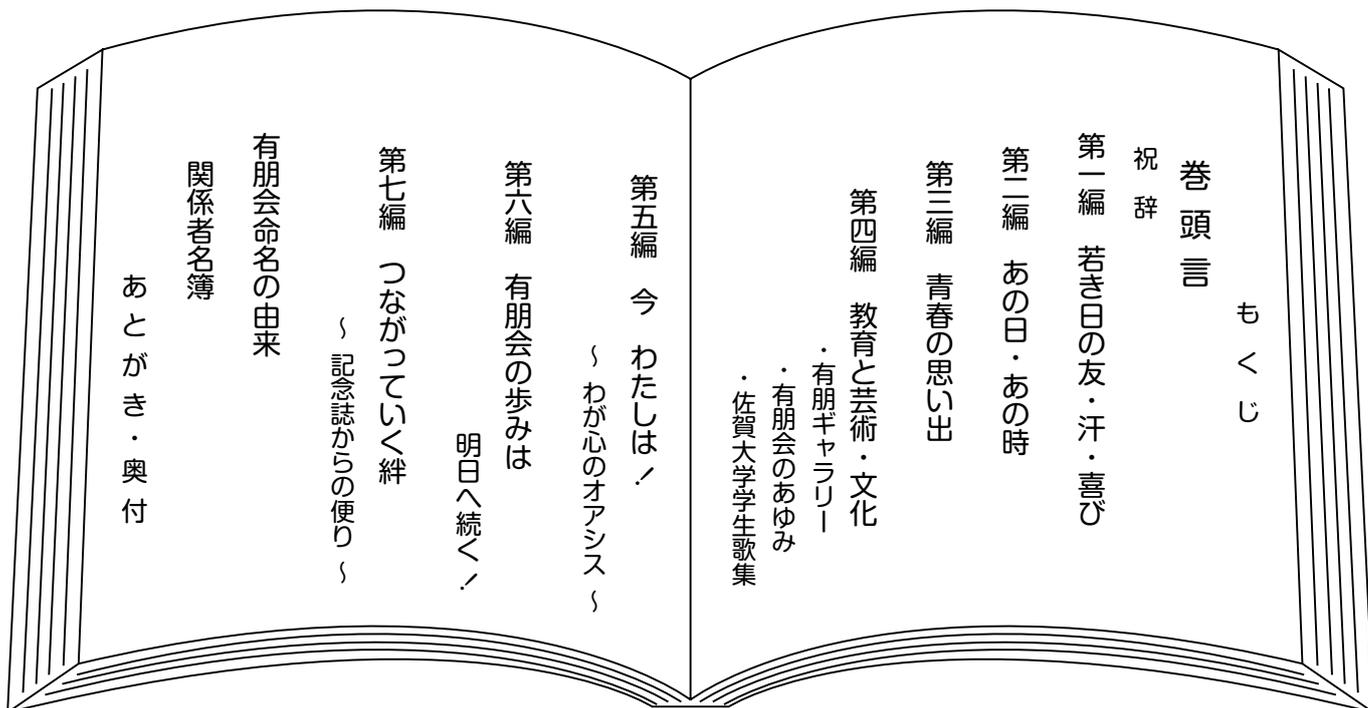
発行；有朋会135年記念誌編集委員会

おかげさまで、印刷所への入稿を経て、すでに校正の運びとなりました。

予定を超えて、170頁もの大作です。令和5年4月1日発行予定。令和5年の8月上旬頃には皆様のお手元に届く段取りになっています。

さて、どなたの素敵な文章が！どんな懐かしい光景が！綴られているのでしょうか。

どうぞお楽しみにお待ちください！



～ たくさんの原稿が寄せられました ～

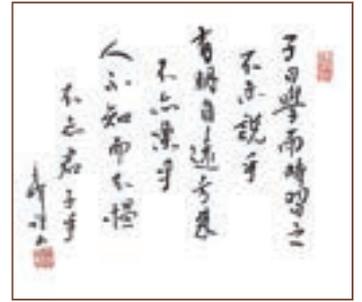


～ 知恵を絞りあつての編集会議 ～

「有朋」命名由来の記念の色紙を全会員に贈呈

明治21年、有朋会発足時の命名由来である「朋有り、遠方より来たる、また楽しからずや」の「論語 学而第一」の全語句が、流麗な筆致の素敵な色紙となりました。書家の米倉基峰先生（S33年卒）の揮毫によるものです。

これまで、総会時に行われていた長寿者祝賀（喜寿、古希、還暦）は、今後は中止させていただきます。その代わりに、全会員の皆様にお祝い記念品として、「有朋会命名由来」の色紙を贈呈させていただきます。今日のコロナ禍の時代を乗り切る、心の絆のリマインドツールとしてご活用ください。この色紙を全会員にお届けすることで長寿者祝賀に代えさせていただきます。



(米倉基峰先生揮毫による「有朋」命名由来の色紙)

令和3年度 追悼会報告



願正寺受付



追悼会の様子

*令和3年11月14日（日）10時より願正寺において、令和3年度に報告がありました物故者100名の会員の方々の追悼法要を執り行いました。新型コロナ禍の中でしたが、ご遺族様はじめ、本部役員や各支部の支部長様の出席をいただき、厳粛に行うことができました。（参列者：4遺族、他40名）

学生就職支援事業の今『教員採用試験対策講座』

*有朋会では、毎年、後輩学生への支援事業として教員採用試験対策講座を行っています。昨年度は、のべ257名の学生の皆さんが受講されました。参加については、教育学部だけではなく他学部からの参加も受け付けています。令和4年度も4月22日から8月10日まで「受験ガイダンス」をスタートに「自己PRの書き方」や「面接・模擬授業」の指導など合計6講座、29回を計画をしています。



受験ガイダンスの様子

《今年の参加者 M・Hさんの感想》

就職支援の案内がきて3回参加しました。採用試験の自己PRや小論文の書き方など、初めはどのように書いて良いかも分からなかったけれど、個別に指導してもらい、対面でその場で質問もでき、試験に向けて自信ができました。



《今年の参加者 Y・Yさんの感想》

指導の先生からは「豊かな心の育成」や「確かな学力」について丁寧に教えていただき、自分なりに要点を捉えることができました。

小論文など一人で考えるとそれが正しいかどうか分からないので、人から見てもらい修正をしてもらうことができとても良かったです。



黒木先生による個別指導の様子

令和4年度 有朋会本部・支部行事計画

月	日	曜	本 部 行 事	備 考
4	1	金	教職員定期異動による名簿更新	※各支部で会員把握
	5	火	佐賀大学入学式、大学院オリエンテーション	
	6	水	佐賀大学学部オリエンテーション 第1回正副会長会（18：00～）	※採用試験支援 4月20日～
	23	土	第1回本部役員会（15：00～）	菱の実会館多目的室
	27	水	有朋会支部役員名簿提出締め切り	※代議員名簿締切 4月27日
5	13	金	会報41号原稿集約（3月25日支部原稿締切）	
	25	水	会報41号第1回編集会議（2回校正）	会報部会
	28	土	第1回代議員会（15：00～） 第1回135年記念誌編集委員会（17：00～）	菱の実会館多目的室
6	1	水	会報発送者名簿確認	※サラトに確認
	8	水	会報41号第2回編集会議（1次校正）	会報部会
	20	月	県内現職会員数調査締切（各支部→本部）	※各学校ごとの名簿集約
	22	水	各部会実施予備日	
7	1	金	令和4年度総会等の案内 本年度の物故者の確認依頼	会報に掲載 会員調査締切：退職含
	6	水	会報41号及び有朋色紙発送開始（各会員へ） 第2回正副会長会（18：00～）	※サラトに確認 菱の実会館小会議室
	29	金	会費納入＝月末締切	会費納入締切1次（振込）
8	1	月	採用試験支援（面接・論文・模擬授業） 8月初め～8月中旬	菱の実会館
	3	水	学部意見交換会（学部課程代表）18：30	菱の実会館多目的室
9	30	金	本年度追悼対象者報告第1次締切	会費納入締切2次（振込）
10	1	土	「第1回有朋の集い」14：00～17：00	佐賀大学大講義室等
	3	月	追悼会案内の発送	
	5	水	第3回正副会長会（18：00～）	菱の実会館小会議室
	12	水	本年度追悼対象者報告 最終締切	
11	22	土	本部役員会（15：00～）	菱の実会館多目的室
	5	土	佐大ホームカミングデー	対象：卒業生の全て
	19	土	佐賀県青春寮歌祭（13：00～） 願正寺との打合せおよび前日準備	エスプラッツホール 事務局
	20	日	追悼会（願正寺）10：00～11：20	参加依頼（各支部3名程度）
	12	7	水	第4回正副会長会（18：00～）
1	11	水	学部意見交換会（学部課程就職担当）18：00	菱の実会館多目的室
2	18	土	第2回代議員会（15：00～）	未納会費の納入締切 菱の実会館多目的室
3	24	金	佐賀大学卒業式（10：00～）・祝賀会（12：30～）	教育学部 ・学校教育学研究科
	30	木	有朋会監査（10：00～）	菱の実会館小会議室

令和4年度 有朋会（佐賀大学教育学部・文化教育学部）役員一覧

	役 職	氏 名	卒業年 課 程	大 院 修 了
1	会 長	山田 直行	S47.美	
2	副 会 長	山口久美子	S41.小	
3	〃	江島きよ子	S52.小	
4	〃	緒方 俊昭	S52.美	
5	〃	黒木 正孝	S53.小	
6	〃	梶島陽一郎	S56.中	
7	幹事（大学）	中村 隆敏	S61.美	H15.院
8	〃	徳安 和博	H02.美	H04.院
9	〃	堤 公一	H06.小	H08.院
10	〃	林 裕子	H14.学	H24.院
11	〃	鳥谷さやか	H20.美	H22.院
12	幹事（退職）	岡 陽子	S54.中	
13	〃	砂後 典之	S59.小	H08.院

	役 職	氏 名	卒業年 課 程	大 院 修 了
14	幹事（現職）	田中 裕子	S61.小	
15	〃	中村 尚志	H03.小	
16	〃	三宅 敏宏	H07.総文	
17	〃	小石 克	H08.総文	
18	幹事（本庄小）	牟田 尚敏	S62.中	
19	幹事（城西中）	宮島 隆	S62.小	
20	幹事（附属小）	岩崎 稔敦	H04.小	
21	幹事（附属中）	永田 康子		H21.院
22	幹事（附属特）	山北 史隆	H07.中	H09.院
23	監 査	末次 利隆	S51.中	
24	〃	宮崎 祐治	S54.小	
25	事務局長	竹下 敬教	S51.中	
26	顧 問	宮尾 正隆	S36.美	

令和3年度決算報告・令和4年度予算

【歳入の部】

費目	令和3年度 執行額	備考	令和4年度 予算額	備考
会費	4,922,000	2,000円×約2,461名	5,200,000	2,000円×2,600名
準会員費	1,133,000	入学時10年会費（教育103名）	1,100,000	入学時10年会費（教育100名）
繰越金	937,069	令和2年度繰越金	1,216,660	令和3年度繰越金
利息	16	利息等	10	利息等
合計	6,992,085		7,516,670	

【歳出の部】

費目	令和3年度 執行額	備考	令和4年度 予算額	備考	
事業費	総会 追悼会費	272,009	祝詞、総会・祝賀会補助等	700,000	祝詞、総会・祝賀会補助等
	お施餓鬼費	31,120	御仏前＋供花	35,000	御仏前＋供花
	慶弔慰問費	190,000	弔慰金、現金書留含む	300,000	弔慰金、現金書留含む
	会員名簿費	22,220	各支部名簿作成と配布	50,000	各支部名簿作成と配布
	会報費	336,360	有朋41号発行	400,000	有朋41号発行
	支部助成金	170,000	10,000円×17支部、総会・講演等補助	300,000	10,000円×17支部、総会等補助
	渉外費	100,000	会長活動費、渉外活動費	100,000	会長活動費、渉外活動費
	新入会員歓迎費	47,025	卒業記念品（祝詞・タオル）150名分	60,000	卒業記念品（祝詞等）150名分
	支援活動費	294,859	就職支援講師謝礼等	300,000	就職支援講師謝礼等
	新規事業	2,000	135年記念誌編集等	200,000	135年記念誌編集等
小計	1,465,593		2,445,000		
会議費	支部長合同会議費	29,500	支部役員、代議員の招聘促進	140,000	支部役員
	役員会費	129,795	正副会、本部役員会等	140,000	正副会、本部役員会等
	監査費	10,000	監査費	10,000	監査費
	諸費	65,115	全学地区会、各種祝儀等	300,000	全学地区会、各種祝儀等
	旅費	15,840	全学同窓会旅費と支部総会等旅費	400,000	全学同窓会旅費と支部総会等旅費
	学部事務打合せ費	0	8月と1月開催中止	140,000	8月と1月開催
	小計	250,250		1,130,000	
需用費	備品費	3,400	職員録等	5,000	職員録等
	消耗品費	32,847	事務用品等	50,000	事務用品等
	通信費	67,635	郵送料	200,000	通信費（郵送料等）
	振り込み手数料	0		1,000	
	印刷費	65,700	事務局印刷費（コピー）	80,000	事務局印刷費（コピー）
小計	169,582		336,000		
事務費	事務局活動費	1,320,000	11万×12月	1,320,000	11万円×12月
	小計	1,320,000		1,320,000	
10年会費備蓄	500,000	5,000円×教育100名	500,000	5,000円×教育100名	
退職記念積立	70,000		70,000		
有朋会基金積立	2,000,000	有朋会基金積立（令和2年度より）	1,000,000	有朋会基金積立（令和2年度より）	
予備費	0		715,670		
合計	5,775,425		7,516,670		
令和3年度残高	1,216,660				

会費納入者数表

年度	会費納入者数(人)	増減	備考
平成3年度	5,012		以前は不明
平成5年度	5,316	304	
平成10年度	4,584	-732	
平成13年度	4,321	-263	文教卒業生
平成15年度	3,880	-441	
平成17年度	4,090	210	喜寿以上も徴収
平成20年度	3,771	-319	
平成22年度	3,182	-589	師範卒無料
平成25年度	2,831	-351	
平成30年度	2,756	-75	130年記念誌発行
令和元年度	3,010	254	新学部生卒業
令和2年度	2,516	-494	会費値上げ(2,000円)
令和3年度	2,461	-55	

令和4年度第1回代議員会 (5.28)



山田会長挨拶



代議員の皆さん

本 部 便 り

追 悼 会

- 期日** 令和4年11月20日(日)
会場 願正寺 佐賀市呉服元町6-5
TEL: 0952-23-4001
日程 ○役員打ち合わせ: 9:00~
○受付: 9:30~
○追悼会: 10:00~11:20

〔追悼会のはじまり〕

※明治24年有朋会員による「総集會」が発足。明治26年当時の全会員128名の浄財で願正寺の一隅に石碑を建立。全会員参加による追悼会が開催されて以来、本会で重要な年行事として継承されてきました。

令和4年7月吉日

有朋会 会員 各位

有朋会会長 山田 直行

令和4年度有朋会「有朋の集い(総会)」の開催(ご案内)

盛夏の候 益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より有朋会に対し、ご支援をいただき厚く感謝申し上げます。
さて、令和4年度有朋会「有朋の集い(総会)」を下記の日程により開催いたします。これまで夏に開催していた有朋会総会を今後は「有朋の集い(総会)」と称することにしました。
ご多用中とは存じますが、ご出席のほどよろしくお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 令和4年10月1日(土) 14:00~17:00
2 会 場 佐賀大学教養教育機構 大講義室(教育学部北側)
3 日 程 ○役員打ち合わせ: 12:30~12:55
《本部役員・支部長》
○受付: 13:00~
○第I部 総会: 14:00~14:30
○第II部 「有朋の集い」記念講演
14:40~15:40
講師: 佐賀大学芸術地域デザイン学部
教授 徳安和博 氏
演題: 「ここ数年間の記念像制作について」

○第III部 「アトラクション」 15:50~16:20

4 参加申し込み

- 会報第41号に同封しています申込ハガキにて、9月10日までに返送してください。

- ※ 長寿者祝賀(喜寿、古希、還暦)はありません。
- ※ 新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては変更があります。開催中止の場合は、ホームページにてお知らせします。
- ※ 車でお越しの際は、土曜日で西門が閉鎖になりますので南部バイパスから入構してください。なお、佐賀大学構内への入構の際は、ゲート手前の発券ボタンを押して駐車券を取って保管してください。帰る時は、精算機に駐車券を入れて精算してください。入構から1時間は無料です。
- ※ 【連絡先】有朋会事務局 事務局長 竹下 敬教 宛
- ※ 〒840-8502 佐賀市本庄町1番地 佐賀大学菱の実会館内
- ※ TEL (0952-23-1253) FAX (0952-25-5700)
- ※ E-mail: dousoukai@sadai.jp
- ※ HP <http://sadai.jp/alumni/>



QRコード

会 費 納 入 の お 願 い

※会費納入は、下記の要領でお願いします。

- 令和2年度から本部年会費は、2,000円です。
- 特別会員(師範学校卒業)の方は、会費免除です。

【1】佐賀県内の学校勤務の会員は？

本部年会費と支部費を学校単位で徴収し、支部事務局へ納入ください。
支部費は、それぞれの支部で違います。(支部からの連絡あり)

【2】佐賀県内の学校勤務以外の会員及び退職会員は？

別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。
支部費は、それぞれの支部で違います。(支部からの連絡あり)

【3】佐賀県外会員の方は？

別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。

【4】卒業後6年経過の会員は？

〈入学時10年会費納入者〉

卒業後6年経過の会員は、別添振込用紙で、本部年会費を郵便局口座に納入ください。
佐賀県内在住者は、上記【1】又は【2】又は【3】の方法で納入ください。

【5】別添振込用紙で納入される場合は？

- 「ゆうちょ銀行」や「郵便局ATM」で。
・口座番号 0-1730-8-35826
・加入者名 「有朋会」
・振込取扱票は「赤」の用紙をお使いください。
・できるだけ早期に納入ください。

有朋会本部年会費の値上げにも関わらず、多くの会員の皆様から会費納入をいただき誠にありがとうございました。今年度もご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

発行日 令和4年7月1日(金)
有朋 発行者 有朋会会長 山田 直行
第41号 編集者 編集部長 江 島 きよ子
事務局 事務局長 竹下 敬教